

為替変動と国際的生産ネットワーク

慶應義塾大学 木村 福成

国境を越えて展開される国際的生産ネットワークは、付加価値の薄い工程間分業のための直接投資に支えられているにもかかわらず、いったん形成されれば、平時か経済危機下かに関わらず、安定性・頑健性を発揮することがわかっている (Obashi (2010))。これは、生産ネットワークへの参加に際して立地の優位性とサービスリンクに関する厳しい条件を満たさねばならないこと、生産ネットワークの構築・運用に sunk cost が存在すること、生産ネットワークを運用することによって立地の優位性とサービスリンクに動学的な改善効果が認められることによるものと考えられる。

逆に言えば、安定した国際経済関係こそが国際的生産ネットワークの存立基盤となっていることが示唆される。Thorbecke (2008) は、為替変動が東アジアにおける電子部品輸出と負の相関を有することを示した。また、Hayakawa and Kimura (2009) は、東アジアにおける機械部品貿易は、二国間実質為替レートの変動と負の相関を有することを明らかにした。Kiyota, Matsuura, and Urata (2008) は、対円為替レートの変動が日系多国籍企業の直接投資に負の影響を与えていることを示した。

また、Ando and Iriyama (2009) は、日本企業のマイクロデータに基づく実証研究に基づき、国際展開に積極的な企業ほど為替変動の吸収能力が高いこと、為替変動のショックはまず企業内貿易の増減によって調整される傾向があることを、明らかにした。

国際貿易と為替変動の間の負の相関は、東アジアにおける機械産業の国際的生産ネットワークにおいて特に顕著である。これは東アジアにおける共通通貨の必要性を直接的に裏付けるものではないが、少なくとも為替の安定が国際的生産ネットワークの展開に重要な役割を果たしていることが示唆される。